

名人宝人 達人

Interview 1

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。地域活動やまちづくりのお手伝いに、
今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

胎教アドバイザー®special ^{すぎはら みよこ} 杉原 美代子さん

胎教でつながる親子の絆 マイナス1歳からの子育て

看護師として30年以上の経験を持ち、産科の現場に携わりながら、希望や不安を抱える妊婦に寄り添い、胎教アドバイザー®specialとして「マイナス1歳®からの子育て」を提案している杉原美代子さん。

もともと自身が勤める産科クリニックで育児セラピストとして、マタニティ教室を開いていた杉原さん。育児放棄や虐待の報道が度々される現状に、あるときから割り切れない気持ちを抱き始め「育児セラピストだけでは限界がある。もしかすると本当に大切なのは赤ちゃんが生まれる前の胎教にあるんじゃないか」と感じたのがきっかけとなり、「一般社団法人日本胎教協会」の講習を受講。広島初の胎教アドバイザー®specialとして、平成30年10月、人材バンクへも登録し活動しています。

産科クリニックで定期開催している胎教教室は3回コースで、お腹に語りかけるアタッチメントの重要性や、胎児の能力と発達、また食生活についても細かくアドバイス。さらに母体をリラックスさせるイメージ法®を取り入れ、妊婦さんが心からリラックスできる空間を作り出していきます。「胎児の状態をキャッチする側の母体の環境が整っていなければ胎教は成り立ちません。



▲中学校での職業講話の様子(令和3年)

まずは妊婦さんを癒してあげることが重要で、そこからお腹の赤ちゃんを感じ、つながり、妊娠後期にはお腹の赤ちゃんとのコミュニケーションがとれるようにまでになるんですよ」と目を輝かせます。産科クリニックでのマ

タニティ教室は一般的ですが、胎教をメインにするのは全国初だそうです。

胎教で大切なのは「自分を知る・胎児を知る・成長を知る」こと。これをきちんと理解することで、生まれる前から絆ができるといいます。実際、赤ちゃんが生まれると同時に母親となり、いきなり始まる育児に戸惑う女性は多く、悩みも尽きません。こうした事を少しでも軽減させるためにも、マイナス1歳からの子育てが重要だと杉原さんは考えます。「最初は半信半疑で参加した妊婦さんも回を重ねるごとに表情が和らいでいきます。さらにお腹の赤ちゃんとのコミュニケーションがとれると愛情が深まり、生まれてきてくれたときには『やっと会えたね、待ってたよ』という気持ちになり、育児をスムーズにしてくれるんですよ」と話す杉原さん。

また、昨年は中学3年生を対象に職業講話を行い、胎教アドバイザー®specialと看護師としての視点から胎教の重要性を伝えました。「中学生に胎教を知ってもらえることに感無量でした。今年も開催される予定なので精一杯伝えてきたいです」と思いもひとしお。

「胎教は今の時代にとっても重要なことだと思います。妊娠、育児と大変な状況でも心豊かになれる瞬間を作り、自分を大切に、そこから初めて自分以外にも優しくできる。胎教が広まることによって育児放棄や虐待が減り、世の中も変わっていけると信じています」と熱く話してくださいました。



▲杉原美代子さん



▲産科クリニックでの胎教教室の様子

まちづくりボランティア人材バンク達人を紹介してもらうには・・・

まちづくりボランティア人材バンクは「自分の知識や技術を生かしてボランティア活動をしたい」達人と「ボランティアで来てほしい、教えてほしい」団体・グループとをつなげるシステムです。

現在150名余りの達人が約180件のボランティア活動で登録しています。年間120件程度の達人紹介の申込みがあり、日程や活動内容等の条件が整った約100件が活動につながっています。

地域活動や手作りイベントなど市民の皆さんが活動する中で、「お願い!達人」という時は、お気軽にご相談ください。

1. 人材バンク紹介申込書の作成

どういう団体・グループが、いつ、どこで、誰を対象に、

何をやる行事なのか、希望する達人を所定の申込書へ記入します。決まっていない項目は空欄のまま大丈夫です。※紹介申込書は、人材バンク登録内容リストや当プラザHP、ひろしま情報a-netから入手できます。※申込書の作成が難しい場合はご相談ください。

2. 広島市まちづくり市民交流プラザへ申込み

当プラザへ、FAX、Eメール、郵送、窓口へ持参のいずれかで申込書を提出します。初めて申し込まれた団体や詳しいことを確認したい時には、当プラザより連絡をさせていただくことがあります。

3. 当プラザから達人へ連絡・調整

紹介申込書の提出後、希望する達人へ当プラザから打診の連絡をし、紹介の可否を確認します。(連絡・調整には、1週間程度かかります。)

4. 申込団体へ達人の連絡先をお知らせ

達人紹介の内諾が得られたら、達人の連絡先をお知らせします。達人との直接のやり取りのスタートです。速やかに正式な依頼の連絡を取りましょう。

5. 活動・イベント等の準備と実施

実施に向けて、達人との十分な打合せを行いましょう。しっかり相談すれば、お互いに良いアイデアが生まれます。よいよ、活動・イベントの実施です。

6. 活動報告アンケートのお願い

活動終了後、当プラザよりアンケートをお送りします。実施結果や感想、写真、配布資料等を報告してください。その後の紹介に大変役立ちますので、ご協力をお願いします。

Interview 2

絵本の読み聞かせ講師 ^{ふじわら みか} 藤原 美香さん

自分の世界を創造できるのが絵本の魅力 たくさんのストーリーに触れて心豊かに育ってほしい

「子どもは何歳になっても絵本を読んでもらうことが大好き。最初は興味のなかった子もいつの間にか輪の中に入ってきて、夢中になって聞いてくれるんですよ」と話す、藤原美香さん。自身の子どもたちが通っていた小学校で読み聞かせを始めて10年になります。子どもたちは読み聞かせの間、隣の友だちとヒソヒソ喋ったり、顔を見合わせながら聞くこともあるそう。

人材バンクへ登録したのは平成31年4月。読み聞かせだけではなく、学校などの読み聞かせボランティアに興味があるけれど不安で一步を踏み出せない人や、家庭での読み聞かせの絵本についてもっと知りたい人を対象に、絵本の読み聞かせ講習会の初心者編を開催しています。講習会は、1.絵本について、2.読み聞かせについて、3.選書について、4.読み聞かせでもっとも大事なことで構成されており、読み聞かせから広がる、子どもの創造力の世界を後押しします。「絵本の魅力は読み手のメッセージをそれぞれの感性で受け取ることができることなんです。授業やテレビなどのように受動的ではなく、能動的にオリジナルの世界観を創造できるようになります」と話す藤原さん。そのためには声色を変えないことが重要だそう。登場人物のセリフなど、声に変化を持たせるとイメージが固定されるため、講習会でもまず最初に伝える注意点だと言います。



▲小学校での読み聞かせの様子(平成28年7月)

平成29年、平和の発信、平和な社会づくり、国際貢献などを行う「特定非営利活動法人ANT-Hiroshima」の代表渡部朋子さんの講習会に参加。そこで知った被爆樹

木のストーリーに感銘を受け、「声なき声を子どもたちに伝えたい」と、ボランティアと一緒に活動している村本美香さんとともに、1年以上を費やし、絵本『被爆樹木の絵本 きつと きこえるよ』を自費出版しました。この絵本は、翠町小学校の全校児童を対象に読み聞かせをし、さらには南区の保育園、幼稚園、小学校に寄贈しました。現在は平和資料館とレストハウス、インターネットで販売され、幅広い平和活動へと繋がっています。平和学習で広島を訪れた学校の先生が絵本を購入したり、広島以外でもこの絵本を使っての読み聞かせが広がっています。

藤原さんの今後の目標は、読み手をもっと増やし、幼児から大人までもっと絵本に触れる場をつくること。「小学生になったとたん絵本に触れる機会が極端に減ってしまう。自分で読める年齢になっても、読み聞かせて重要だと思います。子どものうちに養われた創造力は大人になってからも影響し、自身の経験を重ね合わせて、絵本がまた心に響くと思うんです」と絵本を通してさまざまな活動をする藤原さんに期待が高まります。



▲藤原美香さん



▲被爆樹木の絵本 きつと きこえるよ



▲小学校で保護者を対象とした読み聞かせ講習会(令和3年7月)

こんな時・こんな場面で、人材バンク登録者が活躍! まずは、お気軽にご相談ください。

ケース1 アパート在住の高齢者対象にお楽しみ会を行いたい

自治会のお楽しみ会でのミニコンサート。コロナ禍の状況下で実施するため、楽器の演奏を静かに聴く内容を検討し、それが可能なボランティア登録者の紹介を依頼した。

世代に合った曲を選んで演奏していただき、身体をゆらしてリズムをとったり、マスクの中でハミングしたり、静かにルールを守って聴くことができ、楽しい時間を過ごす事ができた。楽器紹介のシーンでは、素敵な音色がどんな風に奏でられているのか、興味深く説明に身を乗り出して聞いていた。

ケース2 講演会を通して「生きがい」や「生きる楽しみ」について共有したい

地域の集会(社会福祉協議会、自治会、町内会や特別養護老人ホーム利用者とそのご家族など)での講演会。100歳以上を生きるには「生きがい」やその人なりの「生きる楽しみ」が重要な

役割を果たすものと思われたため、人材バンク登録内容リストから「生きがい講演会」を選び依頼した。人生100歳時代の生き方を考えることについて話を聞き、日々の生活に追われて忘れがちな大切なことを思い出す良いきっかけとなった。「ゆっくり考える時間になりました。」「生きる力をいただきました。」と好評を得た。

ケース3 働く意義、人生に希望を持つことの大切さ等を学ぶ「職場体験学習」

中学2年生を対象に実施している「職場体験学習」。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現地を訪ねるような職場体験学習ができなくなった。代わりに、社会経験豊富な達人を招いて話を聞いてみよう、ボランティア登録者の紹介を依頼した。心温まるお話をいただいた後、生徒は自らが抱えている思いを感想に記入し、悩んでいたことに対してすっきりした生徒がいた。自分らしく生きるためにできることについて、考える機会となった。

ケース4 県営住宅の集会所で行っている百歳体操でお楽しみイベントを開催

毎週火曜日に百歳体操を実施。毎月最終週にお楽しみイベントを開催

トを企画しており、新しい内容を取り入れるため、ボランティア登録者の紹介を依頼した。達人から椅子に座ってできる「イスヨガ」を覚えていただいた。お話にはユーモアもあり、「足つぼ」の話などあまり聞かない話も聞くことができた。話を聞くだけではなく、体験もできてよかったので、次年度のお楽しみイベント開催時にも来ていただきたいと思っている。

ケース5 認知症カフェを開催し、楽しく笑って過ごせる居場所づくり

認知症の方とそのご家族、地域の方、介護専門職が楽しく笑って過ごせる居場所づくりに努めている。簡単な手作り工作を楽しめたらボランティア登録者の紹介を依頼した。紹介された達人は大変気さくな方で、時折冗談を交えながら工作を教えていただいた。達人が描く絵手紙に皆が釘付けになる場面もあった。参加者は、できあがった作品を持ち帰ることができ、楽しい時間を過ごすことができた。

ひろしま地歴ウォーク伝播局 たけもと しん 竹本 伸さん

広島を地理・歴史の観点から見つめ直しもっと好きに 本を片手にまち歩きをして、魅力を再発見してほしい

平成30年3月、「広島で生活する人に自分が暮らすまちの地理や歴史をもっと知ってもらい、実際に歩いて広島をもっと好きになってもらう！」をテーマに出版された『ひろしま地歴ウォーク』この本のまとめ役が、竹本伸さんです。

「私も理事を務める市民活動支援団体「一般社団法人空の下おもてなし工房」の企画で、地理や歴史で広島を紹介することを目的に本の自費出版を計画。構想から取材・執筆、完成まで3年近くかかりました」と語る竹本さん。

竹本さんが、地理的観点、歴史的観点、その他カーブや音楽など幅広いジャンルを題材に、学芸員や大学教員などそれぞれの専門家に執筆を依頼。それまで地理・歴史的観点から広島を取り上げた本は無く、初版2,000部は完売。追加した1,000部も完売するほどの注目を集めたそうです。また広島市内の高校では観光授業の副教材としても使われるなど、その価値が評価されています。

「一般的に地理といえば、場所やその土地の産物を調べて紹介することとイメージされがちですが、本当は一つの地域を

多面的に見て、その実態を明らかにすることだと私は考えています」と竹本さん。もともとは県内の高校で地理を教え、現在は大学の非常勤講師を勤めているなど、地理に精通。その経験を生かして出来た本が『ひろしま地歴ウォーク』です。

その後、この本を片



▲出版した本「ひろしま地歴ウォーク」
「ひろしま地歴ウォーク2」

手に実際にまち歩きをして、広島の地理・歴史を知って欲しいと思い、本の発売記念イベントや、市と共催した「広島平和記念都市建設法の足跡をたどる街歩き」や「宇品線跡を歩く」等を企画・実施するとともに、国土交通省「中国地理空間フォーラムin広島」や広島市立中央図書館「ウィキペディアタウンin広島」等のまち歩きガイドにも協力してきました。そして、もっと活動の場を広げていきたいと、令和2年に人材バンクに登録しました。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大がおさまらず、企画を中断。令和2年10月に『ひろしま地歴ウォーク2』を出版後も企画を温め続け、令和4年4月にオンライン上でまち歩き『地歴ウォーク』を開催しました。「オンラインでの開催とあって、最初は不安もありましたが、地図上にコースを示し、予め撮影しておいた写真や動画を交えて紹介。実際に歩いたような雰囲気を楽しんでいただき、喜んでいただいたと思います」。県内外からの参加者約30人が、1時間30分楽しんだそうです。

「コロナ禍ならではの行事でしたが、参加者には仮想空間のまち歩きで、それまで知らないことを知ってもらうことができました。本当は実際に歩きたいのですが、コロナの終息が見えない中、実際のまち歩きは検討中です。」改めて自分が住んでいるまちを歩くことで知る新たな発見。その喜びとやりがいを噛みしめながら、今後もチャレンジを続けていきたいそうです。



▲竹本伸さん



▲ウィキペディアタウンin広島の様子
(平成31年3月)

まちづくりボランティア人材バンク発表会

仕事や趣味などで得た知識・技術などを生かし、ボランティアとして、助言・実技指導などを行う方々が「まちづくりボランティア人材バンク」に数多く登録されています。当プラザでは、市民グループなどからのご要望により、達人たち（登録ボランティア）の紹介・あっせんをします。毎月第4土曜日は「人材バンク発表会」の日。達人たちの得意なテーマで講座や催しを開催しています。どなたでもご参加いただけますので、どうぞご来館ください！

- 日時／8月27日(土)、9月24日(土)、10月22日(土)
毎月第4土曜日 午後2時～3時半
※時間は変更になる場合がございます。※テーマはプラザHPやチラシでお知らせします。
- 場所／北棟6階マルチメディアスタジオ(無料:要事前申込)

【お願い】新型コロナウイルス感染症予防等について、開催予定の催しなどが中止となる可能性があります。詳しい開催状況は、当プラザ HP やチラシ等でご案内いたしますのでご確認ください。

※当バンクは、政治、宗教、営利目的の活動での利用はできません。
※達人紹介は、団体・グループからの単発な活動に限ります。個人活動や長期継続活動への紹介はできません。
※達人は、実費弁償ボランティアとして活動します。交通費、資料代、材料費等の実費は、申込団体にご負担いただけます。

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…
広島市まちづくり市民交流プラザ(合人社ウエンディひと・まちプラザ)
☎(082)545-3911 ☎(082)545-3838

第20回
助成事業

助成先が決定しました



ひと・まち
広島未来づくり
ファンド
ふむふむ
Hm²

今回の助成事業には、19団体(団体育成助成部門4団体、まちづくり活動発展助成部門15団体)の応募がありました。

このうち、育成部門から4団体、発展部門から13団体が書類審査を通過しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定していた公開審査会をやむなく中止。運営委員による2次審査(書類選考)が行われ、下表のとおり助成先が決定しました。

第20回助成事業 助成決定団体と助成金額

令和4年は、16団体に総額3,330,000円(育成部門4団体177,000円、発展部門12団体3,153,000円)が助成されました。今後は11月の中間発表会、翌年5月の成果発表会で、活動成果が報告される予定です。

中間活動発表会 ●日時:11月26日(土)午後1時～午後5時(予定)
●場所:合人社ウエンディひと・まちプラザ
(まちづくり市民交流プラザ)北棟4階ギャラリー

団体育成助成部門

| 団体名 | 事業名称/テーマ | 助成金額 |
|-------------------|-------------------------|--------|
| ひやくなん会 | ひやくなん会 | 3.7万円 |
| NPO法人BUKATSU | 引きこもり予防(はざまの子供たちへの運動支援) | 4.5万円 |
| 妙誓寺ほのぼの寺子屋 | 子どもの健全育成とまちづくり | 5万円 |
| 特定非営利活動法人ここ惚れわんわん | オンライン婚活を開催して成婚数の増加へ | 4.5万円 |
| 計4団体 | | 17.7万円 |

まちづくり活動発展助成部門

| 団体名 | 事業名称/テーマ | 助成金額 |
|------------------------------|--|---------|
| おがうち探検隊TEVENT | シェアハウス寺升 活動展開! | 20万円 |
| 宿題やつつけ隊 | 子どもの学習支援 | 23.7万円 |
| えほんとおそびのちいさな部屋 | 親子で楽しむ えほんとおそび | 30万円 |
| みんなの家 光明 牛田 | 0才～120才まで誰でも参加できる絆の集まり [みんなの家 光明 牛田] | 25.2万円 |
| Romui | 被爆ピアノと丸木位里 | 17万円 |
| くらりか広島 | 地域におけるプログラミング学習の活性化 | 38.9万円 |
| 特定非営利活動法人 広島市要約筆記サークルおりづる | 要約筆記ボランティア入門講座 | 20.4万円 |
| ひろしまブックスケープを活性化させる会 | シェア型本屋[mina books]の企画・開設・運営 | 28.1万円 |
| アートソサイエティひろしま実行委員会 | 地域資源を耕すアーティスト・イン・レジデンス(AIR)とAIRを支える地域連携づくり | 28.9万円 |
| 特定非営利活動法人 広島県手話通訳問題研究会 | 手話通訳の基本を学ぶ研修会 | 29.8万円 |
| 明田フォトプロジェクト | 明田弘司写真集制作と出版記念写真展開催 | 42.5万円 |
| 団地の法面を彩る会 | 団地の法面を彩る会 | 10.8万円 |
| 計12団体 | | 315.3万円 |

※各部門ともに応募申請順

寄付のお願い

ひと・まち広島未来づくりファンドHm²(ふむふむ)は、市民・企業・行政が力を合わせて、市民のまちづくり活動を長期にわたり支えていくために設けられた基金です。私たちの住む広島のまちをよりよくしていくために、できるだけ多くの皆さまからの寄付をお願いします。

振込先 広島銀行広島市役所支店/別段預金 No.3000017

口座名義 公益信託広島市まちづくり活動支援基金寄付金受入口

※手数料は自己負担となります。
※この公益信託への寄付に対して税の減免はございません。
※頂戴したご寄付は、毎月末日締めて集計し、翌月の5日(休日の場合は翌営業日)に基金へ寄付させていただきます。



▲過去の助成事業 中間発表会の様子

公益信託広島市
まちづくり活動支援基金
ひと・まち広島
未来づくりファンド
ふむふむ
Hm²

(公財)広島市文化財団では、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動を支援し、市民、企業、行政の協働によるまちづくりを推進するための仕組みづくりとして、公益信託による基金「ひと・まち広島未来づくりファンドHm²(ふむふむ)」を設けています。
この基金は、心豊かでいきいきとした市民社会づくりを目指すため、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動に対する助成事業を行っており、助成先は、学識経験者などで構成する運営委員会が公開審査し、決定します。

これまでの助成団体や助成額等については、(公財)広島市文化財団ひと・まちネットワーク部のホームページでご覧いただけます。

HP <http://www.cf.city.hiroshima.jp/hitomachi/>



基金の愛称「Hm²(ふむふむ)」とは…
【ひと(Hito)まち(Machi)広島(Hiroshima)未来づくり(Mirazukuri)ファンド】の略で、頭文字(HM²)をとって「ふむふむ」と読みます。【ひと】と【まち】をつなぎ、【広島】の【未来】を創造するファンドで、みんなが「ふむふむ」と納めながら共感が広がっていくまちづくりをイメージしています。